

授業科目名 <英訳>	環境学	担当者所属 職名・氏名	農学研究科 教授	神崎 護
	Environmental Studies		理学研究科 教授	酒井 治孝
			化学研究所 教授	宗林 由樹
			国際高等教育院 教授	林 達也
			防災研究所 教授	向川 均
			農学研究科 教授	間藤 徹
			地球環境学舎 教授	舟川 晋也
			エネルギー科学研究科 准教授	川那辺 洋
			環境安全保健機構 助教	角山 雄一
			環境安全保健機構 教授	酒井 伸一
			地球環境学舎 准教授	浅利 美鈴

群	統合科学科目群	分野(分類)	環境	使用言語	日本語
---	---------	--------	----	------	-----

旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
----	----	-----	-----	------	-----	------	----

開講年度・ 開講期	2016・前期	曜時限	月2	配当学年	全回生	対象学生	全学向
--------------	---------	-----	----	------	-----	------	-----

[授業の概要・目的]

日本においては、公害問題等は一定解決し、日々の生活では実感が薄くなってきた環境問題であるが、多くの途上国では、地域及び地球の環境問題が同時に深刻化し、暮らしの持続可能性を脅かすに至っている。それらの実態に迫り、世界が直面している課題や解決に向けた試みを把握する。環境問題は、その背景やメカニズムを含め、非常に多くの要素が絡みあったものであり、正確に問題の所在を理解し、解決策を打つことは簡単でない。そのような状況で、基礎知識や思考力、それらをベースとした判断や行動が重要になる。そこで、重要な基礎知識として、地球や自然のなりたちと人間との関係について学び、考える。また、様々な視点から、環境問題解決に向けたアプローチや実践例について学び、考える。

[到達目標]

環境問題を考えるための基礎知識として、地球や自然のなりたちと人間との関係、世界の環境問題の実態について俯瞰的に理解する。また、環境問題に対応するための思考力や判断、行動につながる視点として、環境問題解決に向けたアプローチや実践例を理解する。

[授業計画と内容]

環境問題は、危急の世界的課題として、広く認識されているが、日本においては、公害問題等は一定解決し、日々の生活では実感が薄くなってきている。他方、多くの途上国では、地域及び地球の環境問題が同時に深刻化し、暮らしの持続可能性を脅かすに至っている。それらの実態を把握した上で、様々な視点で環境問題に対応することは、特に、本学で学び、将来社会において活躍する学生のみなさんにとって、必ず求められるものとなるだろう。

しかし、環境問題は、その背景やメカニズムを含め、非常に多くの要素が絡み合ったものであり、正確に問題の所在を理解し、解決に向けた対策を打つことは、簡単ではない。さらに、様々な情報や視点が存在するため、時に相反する選択肢がある中で主観的・客観的に物事を判断していくことを求められるケースもあるだろう。

そのような状況で重要と考えられるのが、地球や自然、人間や社会の成り立ちにまで根ざした知識や思考力、それらをベースに環境問題の実態を把握する能力やセンス、そして過去や他の事例を学びつつ環境問題の解決を目指す想いや力などである。

そこで、環境問題について俯瞰的に学ぶ機会となるような講義を行う。環境問題に関する基礎的知識を身につけるため、各論を学ぶにあたっての導入的な位置づけとしてなど、文理問わず、多くの学生のみなさんの環境問題の理解や関心につながる内容を目指す。

環境学(2)

具体的な講義のテーマ及び内容は、次の通りである。

- 1．環境問題を俯瞰する
環境問題の全体像、地球と地域からみた環境問題の構造（1回・酒井伸一）
- 2．「地球」について学ぶ
地球の歴史、地球の構造と仕組み（2回・酒井治孝）
- 3．「自然・生態」について学ぶ
【1】自然の構造と仕組、気候変動（2回・向川均）
【2】海・湖と環境、水圏化学（1回・宗林由樹）
- 4．「人間・健康」について学ぶ
人体、環境と疾病（1回・林達也）
- 5．「技術・ハード面」からのアプローチ・実践例を学ぶ
【1】エネルギー資源、エネルギー利用（2回・川那辺洋）
【2】農業生産と環境（1回・間藤徹）
【3】リスク、放射線と人間・環境（1回・角山雄一）
- 6．アジアやアフリカ地域における環境問題を学ぶ
【1】アジアやアフリカ地域における一次生産をめぐる環境問題（1回・舟川晋也）
【2】アジアの森林消失 背景と現状そして対策（1回・神崎護）
- 7．事例や実践例を学ぶ
大学の環境管理、環境教育、ライフスタイル、実践者から学ぶ（1回・浅利美鈴）

[履修要件]

「統合科学：資源循環と環境」とあわせての履修も推奨する。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

教員ごとに、講義中に、小テストもしくはレポート提出を課す。単位は提出された各テスト結果やレポートの採点を総合して認定される。本年度については6名以上の教員に対する小テストやレポートを、講義中に提出しなければ成績評価の対象とならない。レポートに関する詳細については、それぞれの教員から講義中に指示がある。

[教科書]

京都大学で環境学を考える研究者たち『環境学』（朝倉書店）ISBN:978-4-254-18048 C 3040

[参考書等]

（参考書）
適宜、各講義にて紹介する。

[授業外学習（予習・復習）等]

授業時間内での理解と論考を行うことを基本としつつ、提示した参考書による復習を推奨する。

環境学(3)へ続く

環境学(3)

[その他（オフィスアワー等）]

この講義は、関係分野の本学教員の協力を得て、本学の環境科学センター（環境安全保健機構）が文系・理系学生の環境教育の推進のために開講している。